

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)大産美里甘粕物流センター B棟	階数	地上1F
建設地	埼玉県児玉郡美里町	構造	S造
用途地域	市街化区域、法第22条区域	平均居住人員	15人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2024年10月1日
敷地面積	16,164 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社技建設計
建築面積	3,630 m <sup>2</sup>	確認日	2024年10月1日
延床面積	3,140 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社技建設計



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.6

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 2.9

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>道路境界線からの建物後退距離を十分に確保し、周囲への圧迫感を軽減している。</li> <li>事務室の天井高さ2.5m確保。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路境界線からの建物後退距離を十分に確保し、周囲への圧迫感を軽減している。</li> </ul>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>LED照明を採用し、省エネルギーに配慮している。</li> </ul>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>広告物照明を行わない。</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(株)大産美里甘粕物流センター B棟**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
		<b>Q 建築物の環境品質</b>				
<b>Q1 室内環境</b>						
<b>1 音環境</b>						
1.1 室内騒音レベル		-	-	3.0	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		-	-	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>						
2.1 室温制御		-	-	-	-	
1 室温		-	-	3.0	-	
2 外皮性能		-	-	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	3.0	-	
2.3 空調方式		-	-	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>						
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御		-	-	3.0	-	
3.3 照度		-	-	3.0	-	
3.4 照明制御		-	-	3.0	-	
<b>4 空気質環境</b>						
4.1 発生源対策		-	-	-	-	
1 化学汚染物質		-	-	3.0	-	
4.2 換気		-	-	-	-	
1 換気量		-	-	3.0	-	
2 自然換気性能		-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>			0.43			<b>2.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>1.5</b>	0.40			<b>1.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.50	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理		2.0	0.50	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.5</b>	0.30			<b>2.5</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		1.5	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.25	-	-	
2 給排水・衛生設備		-	-	-	-	
3 電気設備		1.0	0.25	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.25	-	-	

	5	通信・情報設備		1.0	0.25		-	
--	---	---------	--	-----	------	--	---	--

<b>3 対応性・更新性</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.57</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.79	<b>3.1</b>	0.50	-	-	<b>3.1</b>
<b>4 効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>		<b>3.0</b>	0.60	-	-	<b>3.0</b>
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	LCCO2排出率86%	<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	



# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(株)大産美里甘粕物流センター	BEE	0.8	BEEランク	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア	緑の保全・創出のスコア	=		6.6	
3.6	+	3.0			
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.6
<配慮した内容を記述>			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			

:入力欄